

### 第3章 都市圏域別都市づくりの基本方向

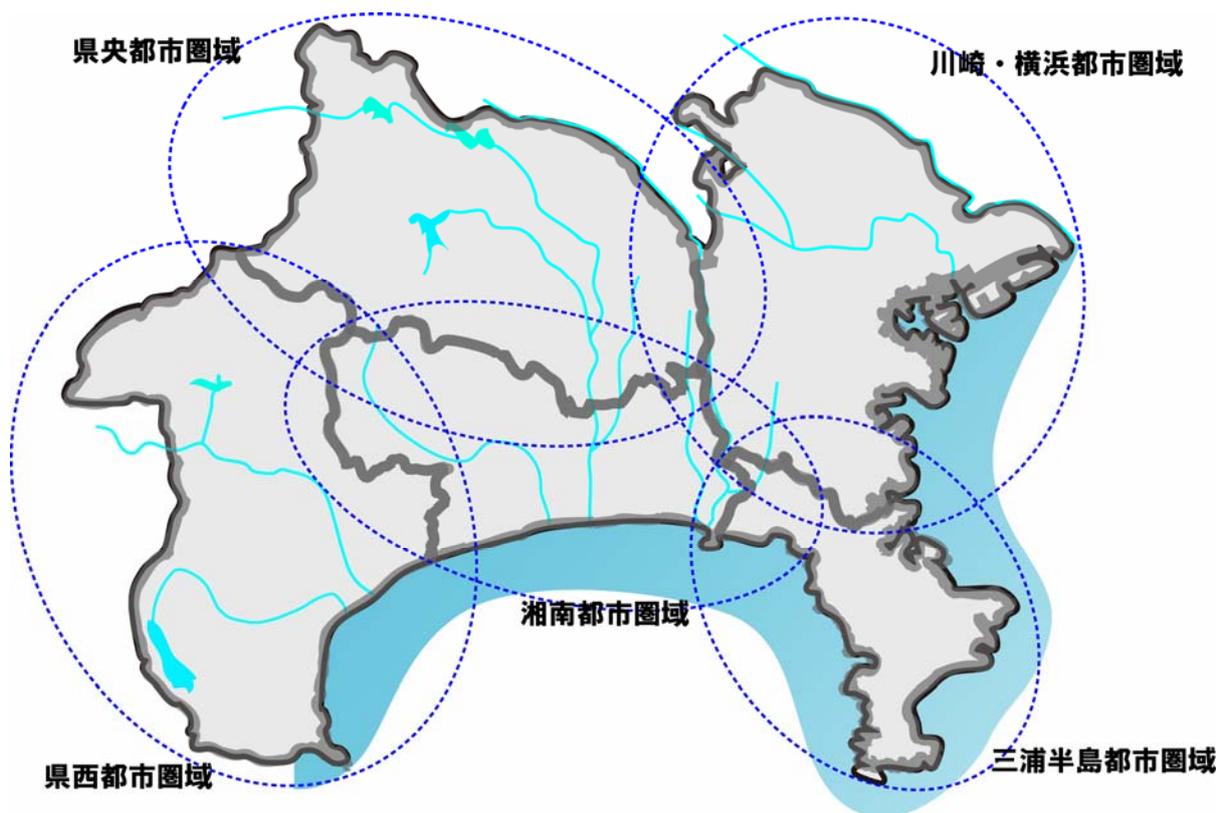
「県土・都市像」(地域の個性を伸ばし、やすらぎと活力を感じる都市 かながわ)の実現に向けた「環境共生」と「自立と連携」の2つの県土・都市づくりの方向性を踏まえて、広域的かつ総合的な都市づくりに取り組んでいく必要があります。

神奈川は首都圏という大消費地に位置するとともに、豊かな自然的環境を有しています。また、各地域に魅力ある歴史・文化資源が存在している一方で、先端的な技術産業や大学、企業の研究施設が集積しているなど、今後の時代を切り開く、優れた潜在能力と豊かな個性を有しています。

これからは、それぞれの個性を伸ばすとともに、それらが相互に連携することで、神奈川の持つ潜在能力をさらに高め、住む人、訪れる人の全てが多様な選択を行える県土づくりを、市町村や県民などと協働で進める必要があります。

そのため、「川崎・横浜都市圏域」、「三浦半島都市圏域」、「湘南都市圏域」、「県央都市圏域」、「県西都市圏域」の5つの都市圏域ごとに、それぞれの個性を生かした広域的な都市づくりの基本方向を示します。

図 3-1 都市圏域図



## 1 川崎・横浜都市圏域

### 都市づくりの目標

#### 産業・文化が世界と交流し、国際的な魅力あふれる都市づくり

先端技術産業や数多くの研究機関が集積する川崎と、開港以来、海外から様々な文化を取り入れ新たな産業を生み出してきた横浜からなる「川崎・横浜都市圏域」では、これまでに果たしてきた経済の活性化や国際交流・文化交流をさらに充実させ、世界に向けて発信・発展する国際的な魅力あふれる都市づくりをめざします。

### 【地域の魅力】

#### ★ 神奈川全体の自立的な発展を支え得るマーケットを有している

○人口減少社会においてもしばらくは人口が増加していくと考えられます。また、国内外からの来訪者も多く、これらの大規模な市場(マーケット)は、県全体の経済活性化につながるビジネスチャンス場となっています。

○鉄道網・道路網が発達しており、都市圏域内や県内外において、県民・NPO・企業など様々な主体が交流や活動をしやすい環境となっています。

#### ★ 高度な産業や優れた人材などが豊富に集積している

○東京とのアクセスが良好であり、世界的な技術力を誇る製造業やハイテク産業、ベンチャー企業、企業・大学等の研究開発機能などが立地しており、専門性や技術力の高い人材が集積しています。

○今後増加が予想される高齢者は、豊富な経験を持ち、知恵や技術に優れた人材でもあり、今後の産業や文化、まちづくりなどの担い手となる重要な人的資源です。

#### ★ 世界に向けて開かれ、海外の諸都市と交流・連携する力がある

○古くより海外から様々な人、モノ、情報、文化等を受入れてきた開港の歴史を持つ横浜港は、スーパー中樞港湾<sup>42</sup>として国際港の機能強化が図られています。

○国際化される羽田空港に多摩川を挟んで近接する川崎臨海部は、国内のみならず、東アジア近隣諸国をはじめとした世界との交流・連携を支える、神奈川の新たな拠点



拡大する消費市場



高度な人材や技術の集積



海外との強い結び付きの歴史



国際的な交流・連携

<sup>42</sup> スーパー中樞港湾 …海外との競争が可能な国際コンテナ港湾の育成を目的として、コンテナ物流のコスト、サービスを向上させるための先導的、実験的な試みを国、港湾管理者、民間事業者が一体となって推進する港湾。京浜港(東京港・横浜港)は2004(平成16)年7月に国によって指定された。

として期待されます。

- 外資系企業やインターナショナルスクール等の立地、大規模なイベント・コンベンションの開催などにより、海外での知名度が高まり、国際的な都市として存在感を発揮しています。

## 【基本方向】

川崎・横浜都市圏域は、これからの神奈川全体の自立・発展をけん引する地域として、また、首都圏全体の中核的な都市としての役割を果たしていくことが重要です。

そのため、既存ストックの集積を活用しながら多彩な人材の活躍機会・ビジネスチャンスなどを生み出し、首都圏・全国・世界とのつながりのなかで、その活力を生かしていくことが重要となります。特に、世界との交流連携を通じて人材・企業・情報など新たな資源を獲得していくために、国際競争力をいっそう強化していくことが必要です。

一方、多摩川や鶴見川沿いの自然空間や東京湾岸の水辺空間、多摩丘陵の緑など都市に残された貴重な自然的環境との調和を図りながら、多様な人々のニーズに応じた、より質の高い安全で機能的な都市づくりを進める必要があります。

## //// 「環境共生」の方向性 ////

### 首都圏の中核的な機能の強化 <複合市街地ゾーン（海側）>

- 水辺の立地を生かしたみなとまちとして、比較的古くから世界の人々に好まれ、市街地が形成されてきた海側の地域では、様々な都市機能の集積や人材などの資源を生かし、首都圏の中核的な機能を担う高密度で利便性が高い効率的な市街地の形成を図ります。
- 広域的な道路交通網や国際港湾機能など産業活動のポテンシャル<sup>43</sup>が高い京浜臨海部では、新たなまちづくりに向けた再編整備を図り、先端技術、高付加価値型の生産、研究開発、物流などの産業機能の集積強化を促進します。また、エコ・エネルギー関連産業の創出・集積を促進するなど、地域の特性を生かして、環境に配慮した持続可能な都市としての機能強化を図ります。
- 工場緑化の促進や緑地の整備などによるみどりの創出、歴史や文化、水辺などの特色ある資源を生かした良好な都市景観の形成、親水性の向上、密集市街地<sup>44</sup>の改善による防災機能の強化などを図り、うるおいある都市づくりを進めます。

### 鉄道駅を中心とした自立的コミュニティの形成

#### <複合市街地ゾーン（内陸側）>

- 内陸側の地域では、鉄道網が発達した地域としての特徴を生かし、鉄道駅を中心とした公共交通が充実した利便性の高い市街地を形成し、多様な世代が交流する活気ある市街地の形成を図ります。
- 自立的なコミュニティ活動を促進するため、市民・企業・NPO など多様な担い手による活動が活発に展開される持続可能な住環境の形成を図ります。

<sup>43</sup> ポテンシャル …潜在的に持っている可能性、力。

<sup>44</sup> 密集市街地 …木造住宅が密集し、地区内の道路が狭隘な市街地で防災上問題のある地域。

- 市街地に残る貴重なみどりは、市民・企業等との協働による取組みによって、保全・創出を図ります。

### 計画的な宅地誘導、地域特性に応じた環境保全 <環境調和ゾーン>

- 今後しばらく続くと想定される人口増加に伴う宅地需要を適切に見極めながら土地利用を進めることが重要です。多摩丘陵の斜面緑地や谷戸、樹林地や農地などは計画的な保全を図りつつ、地域住民等の憩い、ふれあいの場などとして活用を図ります。
- 鶴見川などの河川流域においては、治水対策などとも連動した土地利用によって災害に強い都市づくりを進めるとともに、都市のうるおいや身近なレクリエーションなどの空間としての機能充実を図ります。

### 貴重な自然的環境・資源の保全と活用 <自然的環境保全ゾーン>

- 多摩川沿いや鶴見川上流域などでは、治水をはじめとする防災力の向上を図りながら、水辺の機能を生かして、河川とその周辺の自然的環境を一体的に保全します。
- 都市における貴重な自然的資源の価値に対する共通認識をもち、適切な活用を図ることで、地域が一体となった環境保全を展開し、都市的環境や人間の諸活動が自然と共存する、水とみどり豊かな環境づくりを進めます。

## ■■■■「自立と連携」の方向性■■■■

### 《自立に向けた都市づくり》

#### 全国・世界に開かれた都市の拠点性の向上 <中核拠点>

- 川崎都心部や横浜都心部は、首都圏全体の活力増進と県民の質の高い生活の実現を担う中核拠点として、人材や産業など地域資源が集積する都市の優位性を生かすとともに、より高度な高次都市機能<sup>45</sup>の複合的な集積を促進します。
- 羽田空港や京浜3港、さらに神奈川口などの機能と連携しながら、県民や国内外からの来訪者などの多様なニーズに対応する国際色豊かなまちづくりを進め、付加価値の高い文化・芸術や流行・情報の発信地としての機能強化を図ります。

#### 圏域の自立性を高める都市機能の集積 <広域拠点>

- 新横浜駅周辺において、東海道新幹線駅を中心とする既存のゲート機能を強化するとともに、横浜や川崎の中核拠点との連携により都市圏域全体の活力増進をめざします。また、IT 産業など既存の機能集積を生かし、商業・業務などの広域的な都市機能の集積を充実にさせながら、より多彩で総合的な機能を備えた拠点づくりを進めます。
- 武蔵小杉駅周辺において、川崎・横浜の中核拠点や東京都心部などにつながる複数の鉄道路線が集中する交通結節点としての機能を強化し、商業・業務機能、先端技術産業機能、居住機能などの集積を図るとともに、JR 南武線沿線に立地する世界

<sup>45</sup> 高次都市機能 …都市における様々な機能のなかで、高等教育機関や美術館などの教育・文化施設、医療・福祉施設など専門性の高い施設、付加価値の高い商業施設、集会施設、研究開発や国際的な業務・中枢管理施設など、都市の個性化や拠点性の向上のために必要な機能。

的・先端的なハイテク産業などと連携して研究開発・生産機能の高度化を促進し、人材が生き生きと活動・活躍する拠点づくりを進めます。

- 新百合ヶ丘駅周辺において、東京多摩地域を含めた都市圏域北部一帯の拠点として、商業・業務機能の集積を生かしながら良好な市街地の形成を図るとともに、活発な市民活動を通じて、文化や芸術の情報発信や交流を生み出す魅力ある拠点づくりを進めます。

## **世界との接点、京浜臨海部の機能更新 <新たなゲート>**

- 新たなゲートとしての神奈川口では、羽田空港の再拡張・国際化に対応した拠点整備を促進することで、臨海部における国際的なポテンシャルを生かした新たな産業の創出を図り、企業活動を活性化させます。

## **《連携による機能向上》**

### **国際競争力の向上に資する広域的なネットワークの形成**

- スーパー中核港湾の整備や羽田空港の再拡張・国際化、また、それと関連する神奈川口の整備等による国内外との交流連携の拡大・活発化を促進するため、「東京湾西軸」・「東京湾東軸」などの整備・機能強化を図ります。
- また、中核拠点や広域拠点をネットワーク化し、拠点整備の効果を都市圏域全体に波及させるため、「川崎府中軸」・「横浜多摩軸」などの放射状の連携軸や「横浜環状軸」などの整備・機能強化を促進します。
- そのため（仮称）東京神奈川臨海部連絡道路、川崎縦貫道路や横浜環状道路などの整備を促進します。

### **圏域内外の流動性の向上、交流連携による地域資源の有効活用**

- 都市圏域内における中核拠点・広域拠点間や、東京都心部等との連絡性を高め、自立と連携の都市づくりを促進します。
- 湘南都市圏域などと一体となった観光・交流の促進に向けて、「横浜藤沢軸」や「鎌倉大船戸塚軸」などの整備・機能強化を図ります。
- また、県央都市圏域や県西都市圏域など自然豊かな地域との結びつきを強化し、広域的な活動を展開させるため、「川崎多摩相模原軸」・「横浜県央軸」・「横浜厚木軸」などの整備・機能強化を図ります。
- そのため、首都圏中央連絡自動車道を構成する横浜湘南道路などの整備を促進します。



## 2 三浦半島都市圏域

### 都市づくりの目標

### 半島のみどりと海に調和し、生き生きとした都市づくり

三方を海に囲まれ、変化に富んだ海岸線を有し、多摩丘陵から続くまとまったみどりや古都鎌倉の豊かな歴史と伝統に恵まれた「三浦半島都市圏」では、これらの魅力的な地域資源の保全・再生を図るとともに、水やみどりと共生した都市的環境を創造することで、人々がうるおいをもって快適にらせるようにするとともに、首都圏や海外からも多くの人が訪れる「公園」のような、交流が活発な都市づくりをめざします。

### 【地域の魅力】

#### ★ 風光明媚で気候温暖、自然に恵まれたくらしやすい環境である

○三方を変化に富んだ海岸線に囲まれ、多摩丘陵から連続する丘陵のまとまったみどりが半島の骨格を成しています。また、小網代の森や鎌倉三大緑地をはじめとして半島全域に動植物の生息・生育環境が形成されています。



水とみどりに恵まれた環境

○古都鎌倉をはじめとする歴史的遺産、温暖で風光明媚な葉山・逗子などを中心とする別荘文化など、人を惹きつける魅力を持っています。

○豊かな自然的環境からの恵みによって活力ある農水産業が営まれ、東京や横浜などと近接していることから、首都圏住民の代表的な日帰り行楽地として、体験農業や観光漁業なども活発です。



自然とふれあえる場

#### ★ 川崎・横浜の大消費地と近接し、産業ポテンシャルが高い

○みどりに囲まれた湘南国際村や横須賀リサーチパーク（YRP）の整備などにより、高度な研究開発機関や企業などの立地が進んでいます。



広くまとまりのある農地

○大消費地であり中核的な都市拠点である東京や横浜・川崎と近接していることや、豊かな自然に恵まれた立地環境は、産業や観光振興、また、新たな研究開発機関や企業などの誘致にも大きな強みとなります。

○東京湾側では、港湾機能を活用した大規模な製造業などが立地し、これと関連して商業・サービス業などが集積しており、活力ある市街地を形成しています。



地域特性を生かした産業の立地



## 【基本方向】

三浦半島都市圏域は、都市圏域全体が「公園」のような魅力を発揮していくために、半島の多くの部分を占め、地域の個性を育んできた自然的環境の保全と活用を図るとともに、それと調和・共生した都市的環境を形成することが必要です。

また、恵まれた自然的環境を生かして自立性と活力を高めていくことが重要であり、知的産業等の誘致、新たな人材、知恵・技術等の獲得などができる魅力ある都市づくりや、農水産物など特色ある地域の資源・産業を活用した交流の活発化を図る必要があります。

## ■■■■「環境共生」の方向性■■■■

### 土地の有効活用、利便性の高い市街地の形成 <複合市街地ゾーン>

- 利便性の高い鉄道駅周辺などにおいて土地の有効活用を図り、住宅、商業・サービス、公共・公益施設などの都市機能が集約された市街地の形成を図ります。
- 市街地内の緑地などの保全、既成市街地の改善とあわせた緑化などにより、快適性や防災性の向上などを図るとともに、歴史や文化、良好な住宅・別荘地、マリーナ施設などの特徴ある地域資源を生かして、より質の高い魅力ある市街地の形成を図ります。
- 海とみどりに囲まれた良好な立地条件を生かして、研究開発機能や関連する業務機能などの新たな立地・集積を促進し、多様な機能が集約化された利便性の高く職住近接のライフスタイルが展開できる市街地の形成を進めます。

### 生態系などへの配慮とメリハリある土地利用 <環境調和ゾーン>

- 豊かな自然的環境と利便性の高い市街地とのバランスをとり、半島全体がみどりあふれる「公園」のような魅力ある環境の形成を図ります。
- 持続的な農業生産や身近な自然とのふれあいの場を提供する広くまとまりある農地の保全などを図り、多様な動植物の生息・生育環境にも配慮した計画的な土地利用を進めます。

### まとまったみどりの育成・活用 <自然的環境保全ゾーン>

- 半島最高峰の大楠山周辺などを中心に、国営公園の誘致や大規模な緑地の保全を図り、都市圏域全体のまとまったみどりの核として育みます。
- この核との連携を図りながら、二子山などの大規模な樹林地、小網代の森や、鎌倉の史跡と一体となった丘陵部の緑地などは、適切な保全によって生物多様性の確保を図るとともに、地域固有の資源を生かしたエコツーリズムなど観光の場として活用を図ります。

## //// 「自立と連携」の方向性 ////

### 《自立に向けた都市づくり》

#### 企業や人材の活動を支える高度な都市機能の集積 <広域拠点>

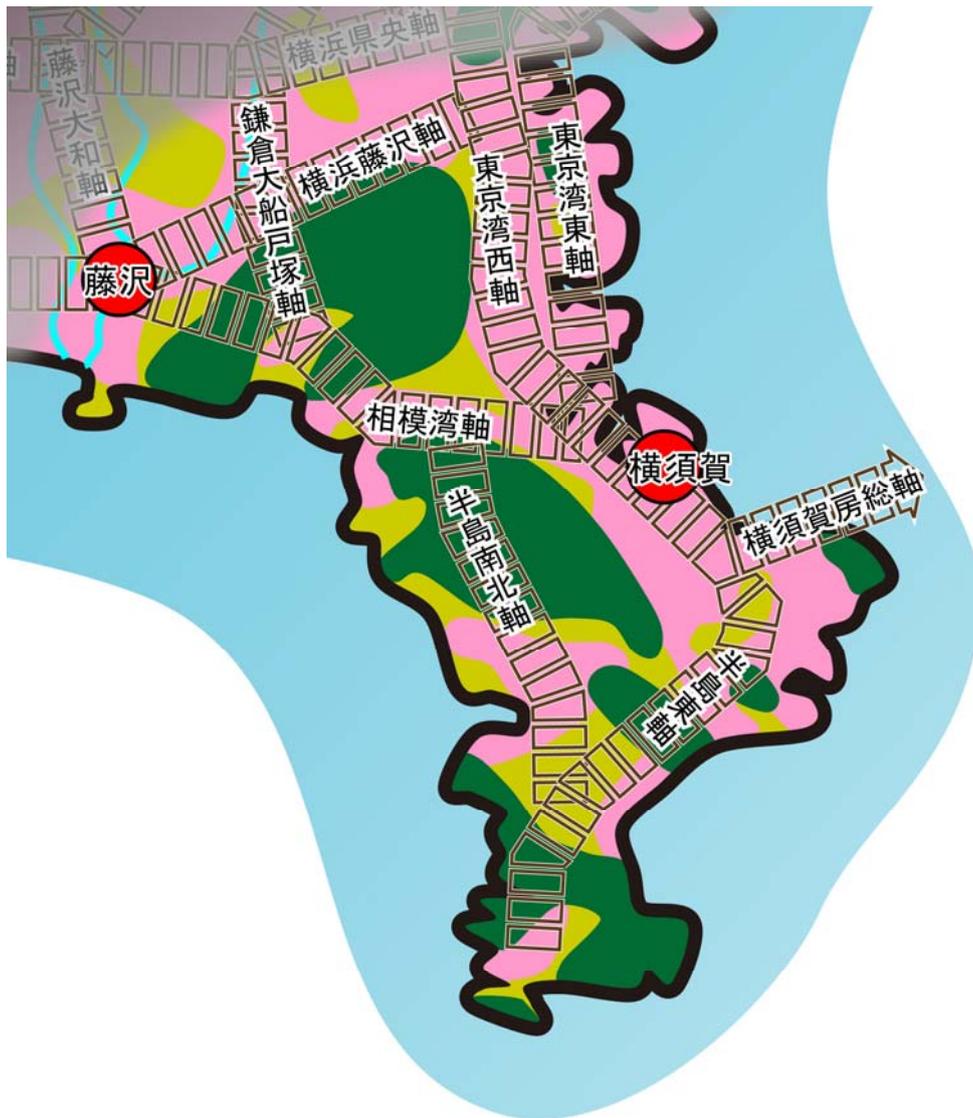
- 横須賀駅から京急汐入駅・横須賀中央駅周辺に広がる横須賀の中心市街地において、職・住・遊・学などバランスある機能集積を促進します。国際色豊かな雰囲気を生かした個性あるまちづくりを進め、商業集積の再編成による競争力・集客力の向上を図るとともに、交流、情報、文化・芸術などを生み出す創造的な都市づくりを進めます。

### 《連携による機能向上》

#### 大規模なマーケットを視野に入れた産業・観光等の活性化の促進

- 東京や川崎・横浜などの大規模市場や国際的な空港・港湾との連携を強化するとともに、東京湾岸の都市・地域間での広域的な交流連携を通じて都市圏域としての自立性を強めるために、「東京湾東軸」・「東京湾西軸」などの整備・機能強化を図ります。
- 三浦半島のツーリズムを生かした広域的な観光の回遊性を創出・活発化させるために、湘南など相模湾岸地域との交流連携を図る「相模湾軸」などや、房総半島などとの交流連携を図る「横須賀房総軸」などの整備・機能強化を図ります。
- 都市圏域内における交流連携を活発化させるため、骨格的な軸となる「半島東軸」や「半島南北軸」の整備・機能強化を図ります。
- そのため、横浜横須賀道路の延伸や東京湾口道路の計画の推進、三浦縦貫道路（Ⅱ期区間）、三浦半島中央道路の整備、京急久里浜線の延伸などを図るとともに、海上交通も視野に入れた代替性のあるネットワークの形成をめざします。

図 3-3 三浦半島都市圏域—都市づくりの方向性—



\* 連携軸は、都市連携軸としての機能を合わせ持った県土連携軸を示しています。

凡 例	<環境共生>	<自立と連携>	
	 複合市街地ゾーン	 広域拠点	 県土連携軸 (都市連携軸)
	 環境調和ゾーン		
	 自然的環境保全ゾーン		

### 3 県央都市圏域

#### 都市づくりの目標

#### 森や川と共生し、うるおいと活力あふれる都市づくり

丹沢や相模川を中心とした森林・川・湖・清流などの自然と、活気ある都市とがバランスよく存在する「県央都市圏域」では、水源を守り、河川沿いにつらなる豊かな自然的環境を保全・再生するとともに、広域的な交通結節機能を踏まえた生活環境や生産環境の整備を図り、うるおいと活力にあふれる循環型の都市づくりをめざします。

#### 【地域の魅力】

#### ★ 自然的環境と都市的環境とが共生して地域を形成している

- 丹沢・津久井一帯には豊かな自然が広がるとともに、相模川流域には活力ある市街地が形成されており、自然と都市の双方の魅力を持っています。
- 森林は水源地として重要であるばかりでなく、流域の市街地の安全やうるおいの確保という視点からも重要な役割を担っており、また、木材などの生産・供給の場として、林業活動が展開されています。
- 市街地には、製造業などの生産・研究機能が集積しており、100万人を超える生活者による大きな消費の場が形成されています。



市街地にうるおいを与える豊かな自然

#### ★ 広域的な交流連携、市場拡大が可能な交通の要衝である

- 幹線道路や鉄道路線が多方向に整備されており、隣接する東京都の市部（町田・多摩・八王子など）や区部方面との間で、人、モノ、情報の流れが活発です。そのため産業・経済の活性化に向けて、つながりの強い東京や、隣接する川崎・横浜都市圏域までを市場として視野に入れることができます。
- 今後の自動車専用道路の整備や新たなインターチェンジの設置などにより、交通の要衝としての機能がいっそう向上していきます。
- 地域の大学と企業などとの共同研究（産学連携）や、東京市部なども含めた企業・大学・支援機関などの広域的な連携事業なども見られます。



交通の要衝としての成長



広域的な連携の拡大

## 【基本方向】

県央都市圏域は、自然と都市とがバランスよく存在する特色を伸ばし、生かしていくことが重要であり、自然・都市、生活・産業の調和・均衡のとれた都市づくりを進める必要があります。

また、都市圏域全体の活力を充実させていくために、自然・歴史・文化や大学・研究機関の集積など様々な地域資源を活用した魅力ある都市づくりを進めるとともに、広域的な交通の要衝としての強みを生かし、産学官連携など、多様な担い手間での交流連携をいっそう促進していく必要があります。

## //// 「環境共生」の方向性 ////

### 多様な選択肢を提供可能な都市づくり <複合市街地ゾーン>

- 自然的環境との調和・共生に配慮しつつ、県域を越えて活動するなどの多様な人々のニーズに対応して、都市的な魅力と産業活力を備えた市街地の形成を図ります。
- 自動車交通量の増加に伴う影響にも対応し、交通需要マネジメント(TDM)などによる需要調整や、高齢者などの活動を支える公共交通機関の充実によって環境負荷の低減を図り、効率性が高く、安全で安心して生活・活動を繰り広げられる市街地を形成します。

### ゆとり志向に対応した、魅力ある地域環境の維持・充実

#### <環境調和ゾーン>

- 相模川などの河川の沿岸地域に広がる水田や雑木林、また、丹沢大山の山すその農地・森林などは、隣接する「自然的環境保全ゾーン」との連続性を踏まえ保全するなど、計画的な土地利用を図ります。
- 市街地周辺に残る谷戸や里地里山などの自然的環境は、所有者等をはじめとした多様な担い手による維持・管理を図ることなどにより、都市住民などの自然志向などの多様なニーズの受け皿として、身近なレクリエーションや自然環境教育、体験・交流の場として活用を図ります。
- 広域的な交通利便性を生かした交流や活動を支える場として、さがみ縦貫道路のインターチェンジ周辺では、新たな産業や物流機能の集積など計画的な土地利用を図ります。

### 多様な担い手による自然的環境の保全・再生 <自然的環境保全ゾーン>

- 相模川の上流部では、神奈川の水源地域として森林の水源かん養機能を高め、良質で安定的な水資源の確保を図ります。
- 人と自然、人と人の交流活動などを通じて、多様な担い手による森林などの自然的環境の保全・再生を図ります。そのため、中山間地域の住環境や営農環境の維持に向けて地域の実情に応じたモビリティの充実を図るとともに、身近なレクリエーションや健康づくりの場としての活用を促進します。

### 《自立に向けた都市づくり》

#### 交通の要衝としてのポテンシャルを生かした機能集積 <広域拠点>

- 本厚木駅周辺において、商業、業務、交流などの各種機能の複合的な集積を図り、拠点性を高めます。また、ターミナル機能の強化・充実や自動車交通の円滑化などと連動した歩行者ネットワークの形成によって、歩いて楽しめる拠点づくりを進めます。
- 橋本駅周辺において、近隣に集積する生産・産業機能を生かし、これらを基盤とした研究開発や、新たなビジネスの受け皿となる業務機能などの集積を図ります。また、町田・八王子など東京市部を含む広域的な交流連携の結節拠点として、集客力のある商業集積の再編、教育・文化機能などの強化を図り、活力ある拠点づくりを進めます。

#### 全国との交流連携の窓口となる新たな拠点づくり <新たなゲート>

- 「北のゲート」としては、リニア中央新幹線駅の誘致を図り、新たなゲート機能を核に、全国との交流連携の窓口にあふさわしい商業・業務、サービス機能等の複合的な集積を図り、新たな環境共生型の拠点づくりを進めます。

### 《連携による機能向上》

#### 多様な活動の新たな展開を促す広域的なつながり、連携の拡大

- 都市圏域全体の利便性の向上と新たな活力の創出に向けて、南北のゲートを有機的に結ぶとともに、湘南都市圏域や東京市部などとの南北方向のつながりを深めるため、「相模軸」の整備・機能強化を図ります。
- 新たなゲートによる全国との交流連携を都市圏域内外に広く波及させるため、また、近接する大都市などの市場との交流を促進するために、川崎・横浜や山梨方向の「橋本津久井軸」・「川崎多摩相模原軸」・「横浜厚木軸」、東京市部・区部方向の「厚木東京軸」・「厚木町田世田谷軸」など、多方面に向けた連携軸の整備・機能強化を図ります。
- そのため、JR 相模線複線化の促進やさがみ縦貫道路、第二東名高速道路、国道246号バイパス、(仮称)綾瀬インターチェンジ、津久井広域道路などの整備促進、小田急多摩線の延伸促進、武相幹線の整備検討などを図ります。



## 4 湘南都市圏域

### 都市づくりの目標

### 山なみをのぞみ、海と川が出会い、 歴史を生き文化を創造する都市づくり

湘南のなぎさや相模川、丹沢のやまなみの遠景などの自然資源や相模湾沿岸に広がる旧別荘などの歴史・文化的資源に恵まれた「湘南都市圏域」では、貴重な地域資源を広域的に保全・活用し、県土のうるおいの軸として育むとともに、広域的な交通基盤の整備と合わせた都市機能の集積などにより、地域の価値や魅力をいっそう高め、優れた環境と地域力を備えた都市づくりをめざします。

### 【地域の魅力】

#### ★ 街道によって育まれた歴史などにより、豊かな資源が蓄積されている

○相模湾沿岸一帯は、旧東海道が沿道地域のくらしや文化などを育み、また丹沢山系ややまの辺の里地里山などのみどりを抱える内陸側は、大山詣などの社寺参詣と関連して街道筋が整えられており、様々な歴史的・文化的資源などが蓄積されています。



○東海道を中心に古くから道路・鉄道が整備されたことで、製造業などの企業の立地が進んでおり、また、研究開発型産業や大学・研究機関なども集積して、高度な知識・技術などが蓄積されています。



街道筋に育まれた歴史的資源

○温暖な気候と湘南の海などの魅力が、別荘・保養地、レクリエーションの場として人々を惹きつけています。かつて多くの文化人などが生活や保養のために訪れた歴史は、和洋の近代建造物とみどり豊かな庭園として残り、貴重な資源となっています。



#### ★ 「なぎさ」などの自然が上質な環境を演出し、 地域ブランドを育てている

○湘南の海や丹沢の山などは、気軽に自然と親しむことができる憩いの場であり、景観・眺望に恵まれていることで、くらしやすい良好な住環境のイメージが形成されています。

○特にマリンスポーツ、ブルーツーリズムなどで人々に親しまれる海は、太陽族、湘南サウンドなどのように「湘南文化」を生み出し、海に近い洒落た地域としての湘南イメージを全国的に知らしめ、住民の地域への誇りや愛着を育



多くの人を魅了するなぎさ

んでいます。

- 自然や景観などに対する関心の高まりのもと、多彩な地域資源を対象とした保全や活用に関して、住民などによる自主的な活動が幅広く展開されています。
- また、美しいなぎさや松林など魅力ある海岸線の維持・形成に向けて、住民・企業・行政によって、水源の森林づくりや川と海のつながりを意識した上下流間の交流による広域的な環境保全の活動が進められています。



環境を守る様々な取り組み

## 【基本方向】

湘南都市圏域は、湘南海岸のなぎさや丹沢大山のやまなみなどの特色を生かして、より強い地域ブランドを構築することが重要であり、相模湾や相模川沿いに点在する貴重な地域資源を連携させ、一体的に保全・活用することで、魅力ある景観や質の高い環境を形成していくことが必要です。

また、地域ブランドを積極的に活用しながら都市圏域内外での交流連携を活発化させるとともに、新たな生活文化や産業などを生み出す付加価値の高い都市づくりを進める必要があります。

## //// 「環境共生」の方向性 ////

### 地域ブランドを構築・発揮する魅力ある都市空間の形成

#### <複合市街地ゾーン>

- 相模湾岸における地域では、湘南の海に近接する良好な生活環境の維持・形成を図り、バス・鉄道・路面電車など環境に優しい公共交通機関を積極的に活用して、都市型のライフスタイルを支える市街地を創造するとともに、大学や研究所等との協働のもと、研究開発や新たな産業などの活動が展開できる都市的環境を形成します。
- なぎさを中心とする水とみどりに調和・共生する環境を形成するため、それぞれの海岸では、都市景観としても貴重な砂防林の保護育成などを進めます。また、境川・引地川等の流域では、都市型水害の発生・被害を抑制する治水対策と連携した土地利用により、安全で快適な、景観にも配慮した住環境の形成を図ります。
- 内陸側においては、ゆとりある住環境を形成するとともに、大学・研究機関の立地や工業団地などの産業集積、新たな幹線道路整備などを生かして、活力ある市街地の形成を図ります。

### 海と山の魅力を融合させる土地利用 <環境調和ゾーン>

- 丹沢の「山」の魅力と湘南の「海」の魅力が接し、融合する地域として、新たな幹線道路の整備などに伴う環境への影響に配慮しつつ、農地の保全やモビリティの確保などにより、畜産、施設園芸など生産性の高い都市農業などを活発化させるとともに、インターチェンジ周辺においては産業・物流系機能などの計画的な集積を誘導するなど、都市圏域全体の魅力向上につながる土地利用を図ります。
- 大磯丘陵や丹沢山地の麓などに広がるやまの辺の里地里山などの自然的環境は、

うるおいや憩いなどといった地域の価値を発揮させるための貴重な資源であり、都市住民との交流を通じて身近なみどりとして維持・管理を図ります。

## 新たな魅力を生み出す山や森林等の保全・活用

### <自然的環境保全ゾーン>

- 丹沢大山のやまなみのみどりは、良好な景観形成や防災機能の向上を図るとともに、水や清涼な空気などの供給源として、また、多様な生態系を維持するために、適切な保全を図ります。
- また、「海」と「山」の多様な楽しみ方ができる湘南都市圏域ならではの複合的な魅力づくりに向けて、大山詣と結びついたハイキングや登山など、山の自然と人とのコミュニケーションの場、観光・レクリエーションの場として活用を図るとともに、森林資源の有効活用などによる生産の場としての機能強化によって、管理・保全を進めます。

## //// 「自立と連携」の方向性 ////

### 《自立に向けた都市づくり》

#### 「湘南ブランド」を生かした活力増進と情報発信 <広域拠点>

- 藤沢駅周辺において、交通利便性を生かし、既存の都市基盤や商業・業務、文化機能などの集積を図ります。また、辻堂駅周辺における、新たな産業や研究開発などの機能集積とあわせ、にぎわいと活力のある都市づくりを進めます。
- 平塚駅周辺において、商業・業務機能の充実とともに、土地の高度利用・有効利用などを図りながら、芸術文化などの新たな都市機能の立地を促進し、中心市街地の魅力と集客力を強化します。また、「南のゲート」のツインシティ整備と連携し、広域的な交流を生かした都市づくりを進めます。
- 秦野駅周辺において、商業・業務機能や生活サービス機能などの充実による交流とにぎわいの創出を図ります。また、内陸側の産業集積などを生かし、新たな産業を育む多様な連携の結節点として活力を生み出すとともに、安全・安心・快適な生活を支える医療などの拠点となる都市づくりを進めます。

#### 「環境共生」のモデルとなる都市拠点の形成 <新たなゲート>

- 新たな「南のゲート」では、東海道新幹線新駅誘致地区を中心とした環境共生モデル都市<sup>46</sup>ツインシティを整備し、県土の新たな窓口にふさわしい都市機能の集積によって新たな拠点を形成し、周辺都市や新たな産業・研究拠点との連携によって地域活力を高めるとともに、エネルギーの有効活用や、物質や水等の広域循環システムの構築を進め、都市圏全体を環境と共生する都市圏へと導きます。

### 《連携による機能向上》

#### 広域的な交通利便性の向上に伴う交流連携効果の拡大

- 「南のゲート」を生かした全国との交流連携をインパクトとして都市圏域内外の経済・

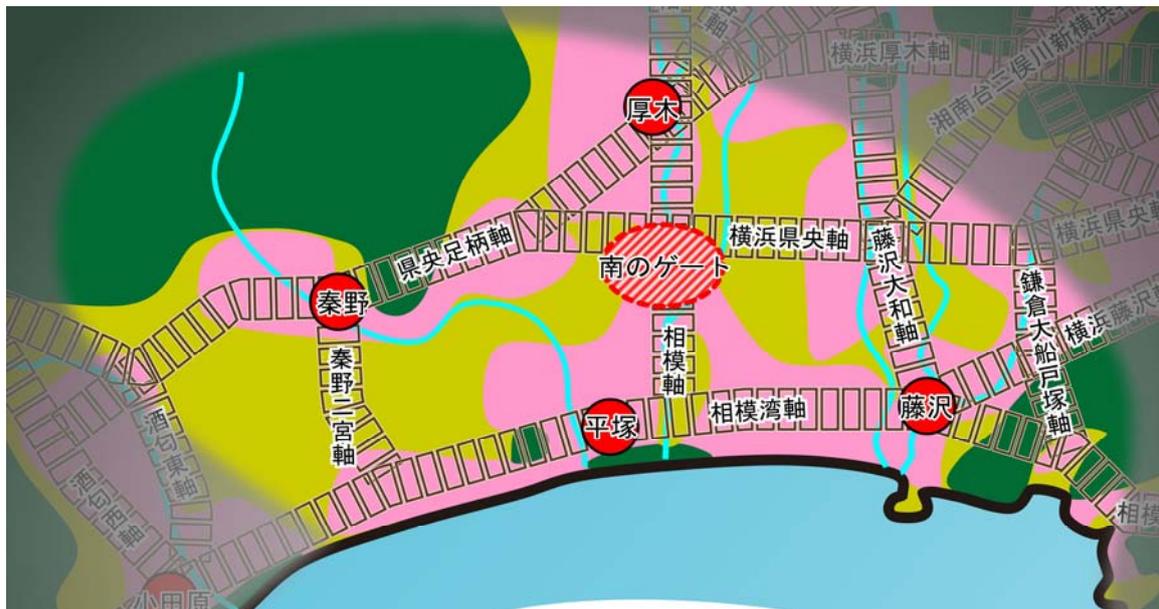
<sup>46</sup> 環境共生モデル都市 …自然空間との共生を図る土地利用や環境負荷の少ない都市基盤整備を展開するモデル都市。

産業を活発化させるため、「北のゲート」と有機的に連携する「相模軸」の整備・機能強化を図ります。

○中核拠点の波及効果を取り込むとともに市場の拡大を見込み、また、「南のゲート」による全国との交流連携を県土東西方向へと拡大させていくために、「横浜県央軸」や「県央足柄軸」、「相模湾軸」などの整備・機能強化を図ります。

○そのため、JR 相模線複線化の促進やさがみ縦貫道路、第二東名高速道路、国道 246 号バイパス、新湘南国道の整備促進を図ります。

図 3-5 湘南都市圏域－都市づくりの方向性－



\*連携軸は、都市連携軸としての機能を合わせ持った県土連携軸を示しています。

凡 例	<環境共生>	<自立と連携>	
	複合市街地ゾーン	広域拠点	県土連携軸 (都市連携軸)
	環境調和ゾーン	新たなゲート	
	自然的環境保全ゾーン		

## 5 県西都市圏域

### 都市づくりの目標

### 歴史と自然につつまれ、観光と交流によるにぎわいのある都市づくり

富士・箱根・伊豆に連なる豊かな自然を背景に、山・川・海・湖・温泉、歴史や文化などの観光資源に恵まれた「県西都市圏域」では、これらの資源の保全・活用を図りながら、隣接する山梨・静岡両県と連携しつつ国内外から多くの人々が訪れ、交流する地域としての魅力の向上や、地域活力の向上に資する都市機能の集積を図り、職・住・遊が一体となって豊かな暮らしを実現できる都市づくりをめざします。

### 【地域の魅力】

#### ★ 国際観光地としての魅力があり、交流人口によるマーケットがある

- 全国有数の温泉地である箱根、歴史ある城下町・宿場町の小田原、さがみの小京都と言われる湯河原など、それぞれ魅力を持ったわが国を代表する観光地となっています。
- 国際的な観光地域として、いっそうの魅力向上が期待されており、富士箱根伊豆地域のさらなる活性化や災害対策など広域的な課題の解決に取り組むために、山梨・静岡・神奈川の3県による広域連携が進められています。
- 県西都市圏域の人口は、今後新たな増加を見込みにくくなりますが、国内外からの来訪者が巨大な市場(マーケット)を形成しており、裾野の広い観光産業が発展しています。



#### ★ 地域資源を生かす「場」の力がある

- 西湘テクノパークやテクノネット湘南などの産業集積の拠点づくりが進められています。また、地域の恵まれた資源を活用しつつ、環境に調和した産業が立地しやすい条件を有しています。
- 酒匂川の水源地である森林をはじめ豊かな自然的環境が広がっており、また、これらを生かした農産物や木製品、伝統工芸品、水産練製品などの地域産業やそれらを支える人と人のつながりが根づいています。



温泉や城などの豊富な観光資源



伝統産業、観光産業、先端産業など多様な産業機能

- 豊かな自然に恵まれ、富士山をのぞむ美しい景観や自然とのふれあいの場、また身近なレクリエーションの場が充実していることは、地域生活をより魅力あるものとし、新たな産業立地などにあたっても、大きなセールスポイントとなります。

## 【基本方向】

県西都市圏域は、国際的な観光・リゾート地としての優位性を生かして都市圏域全体の魅力と競争力の向上を図ることが重要であり、その強みの元となっている豊かな自然や文化的遺産などの観光資源の維持・活用とともに、交流を通じて地域の価値をいっそう高める必要があります。

また、都市圏域の自立性を向上させるために、裾野の広い観光産業の育成を基調としつつ、環境や生活に配慮した新しい産業機能などの立地を促進することが重要です。

## ■■■■「環境共生」の方向性■■■■

### 多彩な交流を支え、住み続けられる環境づくり <複合市街地ゾーン>

- 今後進むと予想される人口減少・高齢化にも対応し、鉄道駅を中心として住居や商業などの生活に必要な機能が集積され、効率的に地域を運営していくことのできる市街地を形成します。あわせて、鉄道駅を中心とするモビリティを確保し、公共交通機関による利便性が高く、自動車に過度に依存しないで生活できるまちづくりを促進します。
- 観光産業の裾野の広がりを生かした関連産業や、医療・福祉・環境分野などの新産業の立地を誘導し、みどり豊かな自然的環境と共生した、ゆとりあるライフスタイルが実現できる職住近接型の市街地の形成を図ります。
- 地域ならではの歴史や文化などを反映した、個性あるまちなみの演出や景観の保全・創出などを図り、国内外から訪れる人々と地域住民が交流し、にぎわいと文化を生み出す創造的な都市空間の形成を図ります。

### 計画的な土地利用による環境・資源の管理 <環境調和ゾーン>

- 強羅・箱根湯本などの箱根地域は、国際的リゾート地域として、箱根の山なみや芦ノ湖などの自然景観や歴史・文化を生かし、いっそうの魅力強化を進めます。
- 市街地周辺に残る谷戸や里地里山などの自然的環境は、自然と共生する新たなライフスタイルの創出と定住化の促進により、自然・生活・産業が調和した地域をめざして保全を図ります。
- そのため、酒匂川などの河川の沿岸地域に広がる水田や雑木林、また、曾我丘陵や箱根の山すその農地・森林などは、隣接する「自然的環境保全ゾーン」との連続性を踏まえ保全するなど、計画的な土地利用を図ります。また、地域住民をはじめとした多様な担い手による維持・管理を図るとともに、都市住民の自然志向などの多様なニーズを受けて、身近なレクリエーションや自然環境教育、体験・交流の場としても活用を図ります。

## 豊かな自然的環境の維持 <自然的環境保全ゾーン>

○西丹沢一帯をはじめとする豊かな山林は、森林資源の有効活用などによる産業活性化とあわせて森林の機能を維持・管理していくとともに、都市住民が自然とのふれあいを体験できるエコツーリズム<sup>47</sup>やレクリエーションの場として活用することなどにより、神奈川の貴重な自然的環境の保全・活用を図ります。

## //// 「自立と連携」の方向性 ////

### 《自立に向けた都市づくり》

#### 中心市街地の機能強化 <広域拠点>

○小田原駅周辺において、東海道新幹線駅による広域的なゲート機能を生かし、情報交流などのコンベンション機能の充実などによって、国際的な観光地域の顔としてふさわしい都市づくりを進めます。また、ゆとりある住宅や研究開発型企业、芸術・文化を発信する機能などの集積によって、より魅力ある広域交流の拠点づくりを進めます。

### 《連携による機能向上》

#### 広域的な連携による活力向上、ニーズの多様化などへの対応

- 首都圏や全国とのつながりを強めて都市住民などを自然のなかで受け入れ交流を促進するため、また、山梨・静岡との防災性の向上といった視点も踏まえた交流連携を強化し、富士箱根伊豆交流圏<sup>48</sup>として国際的な観光拠点の形成を図るため、「県央足柄軸」や「相模湾軸」などの整備・機能強化を図ります。
- さらに、小田原のゲート機能を生かし、都市圏域内での多様な交流連携を支え、豊かな自然や歴史・文化を生かした富士・箱根・伊豆の広域的な回遊性を創出するため、「酒匂東軸」・「酒匂西軸」・「御殿場軸」などの整備・機能強化を図ります。
- そのため、第二東名高速道路の整備、西湘バイパスの延伸を促進するとともに、酒匂縦貫道路や小田原環状道路の整備などを進めます。

<sup>47</sup> エコツーリズム

…ツーリズム(旅行、旅)の形態の一種で、自然環境の観察や体験を伴う。原生自然的な体験だけでなく、里山的二次自然への体験、学習も含み、近年では地域の歴史・暮らし文化の体験、学習も含める場合もある。

<sup>48</sup> 富士箱根伊豆交流圏

…富士箱根伊豆国立公園を中心とした、自然のつながりや将来の高速交通網の整備を勘案し、一体的な地域振興を図るエリア。(山梨県:富士北麓圏域及び峡南、東部圏域の一部、静岡県:富士、駿東・田方、熱海・伊東、伊豆地域及び静岡庵地域の一部、神奈川県:足柄上地区、西湘地区)

図 3-6 県西都市圏域—都市づくりの方向性—



\*連携軸は、都市連携軸としての機能を合わせ持った県土連携軸を示しています。

凡 例	<環境共生>	<自立と連携>	
	複合市街地ゾーン	広域拠点	県土連携軸 (都市連携軸)
	環境調和ゾーン		
	自然的環境保全ゾーン		